



平成 30 年度 小学生中国派遣研修レポート

所属校【 熊野小学校 】
氏名【 近藤 美月 】

私は、中国派遣研修を通して、中国の文化や歴史を
肌で感じて学ぶことができました。2日目の婦人児童活動



センターでは、
初めての劇の
発表で、特にクイズ
などで、日本の
文化を伝えて中
国の方に喜んで
もらえました。そし

て、中国の伝統楽器を体験して、現地の小学生と交流して仲良くなる
ことができました。3日目は現地の太平路小学校を訪問
して、太鼓や歌など、中国の音楽を聴きました。中国の小学校では、
3年生から授業を選ぶことができるそうです。そこで、図工と科学
の授業を体験して、中国の伝統や、授業の様子を学ぶことが
できました。日本国領事館では、日本の文化を紹介する
「青島ジャパンデー」を作って文化交流をしたり、パスポートを
更新したりしているのたど分かりました。そして、外務省で働くには
幅広い勉強が必要で、そのためには中学～高校までの全ての科目

をしっかりと学習することが大切だ"と分かりました。4日目は日本人学校に行きました。日本人学校の小学生は以外と中国語を話せない人が多くて、人数が少なくて中学生と小学生が同じ校舎で勉強しているということ以外は、日本の小学校とほとんど同じだ"と思いました。フランスでは、



日本より大きな国でチャレンジしたから、たから中国に工場を建てたことや、パンハのこだわりについて聞くことが

できました。私は、中国派遣研修で、言葉は通じなくても、身振り手振りで思っていることが通じることや良くないわさやイメージが本当なのかは現地に行ってみないと分からないということが分かりました。たくさんのお土産があつたけれど、日本ではできない経験ができて本当に良い思い出ができました。



平成 30 年度 小学生中国派遣研修レポート

所属校【下関市立勝山小学校】
氏名【坂元 友美】

私がこの研修に行き、たくさんの人

とふれ合った中で一番印象に残っているのは道や店、空港などで出会った中国

の人達の優しさです。研修に行く前まで

は中国の人達とふれ合うことに少し不安

がありました。が実際会ってみると、優しい

人ばかりでうれしかったです。

街の様子を見てみると、日本で使われて

いる漢字もあり読めなくてもその場の

ふんいさなどで意味が分かるものがた

くありました。日本とどこかふんいさが

にいて安心することができました。

また、現地の日本人学校も心に残ってい

ます。学校内の教室や授業の様子を

見学できて、楽しかったです。交流する時

間では普通の友達と同じような感覚で話すことができました。

私が一番楽しみにしていたのは、現地小

学校の訪問でした。太平路小学校では、

現地の小学生と交流する時間がありエ

作するときには身ぶり手ぶりや表情で

色のぬり方などを伝え合うことがで

きました。

言葉の通

じない相手

とも通じ合

えたことで心

の底から分

かり合えた

気がしてい

れしかったで

す。

太平路小学校の教室にて



私が一番楽しみにしていたのは、現地小
学校の訪問でした。太平路小学校では、
現地の小学生と交流する時間がありエ
作するときには身ぶり手ぶりや表情で
色のぬり方などを伝え合うことがで
きました。
言葉の通
じない相手
とも通じ合
えたことで心
の底から分
かり合えた
気がしてい
れしかったで
す。

センターでクイズを楽しんでいる人達



私はこの研修を通して相手の気持ちを考えることの大切さを学ぶことができました。現地小学校や婦人児童活動センターでの交流など、中国の言葉の通じない相手と話す機会がたくさんありました。が、のどれも相手が何を言いた

婦人児童活動センターでは、いろいろな劇の中でも、特にクイズを楽しんでくれました。自分分が練習を通して、中国語が伝わったことが実感でき、自信を持つことができました。

中国伝統の楽器



終わらせるのではなく、未来へと生かしていきたいです。

いのかを考えないといけません。例えば、センターで中国伝統の楽器の使い方を教えてもらったときには、相手の動作や表情を見て、相手の伝えたいことを読み取らなければなりません。こうした経験を積み、このことで文化の違いを克服でき、たくさんの人と仲良くなることになりました。この関係をここで終わらせるのではなく、未来へと生かしていきたいです。





平成 30 年度 小学生中国派遣研修レポート

所属校【下関市立王喜小学校】

氏名【中村 馬区】

ぼくは10月13日から10月18日までの5日間、中国の青島に行ってきました。ぼくはこの5日間の研修の中で特に心に残ったことが2つあります。

一つ目は、青島市婦人児童活動センターでの交流です。ぼくの住んでいる地域では、たけのこや竹が有名で、クランプントやアンクルンという竹の楽器を使って演奏することがあります。竹ぼっくりを作ったりとたくさんの竹にちなんだ活動もあります。ぼくは婦人児童活動センターで、竹で作



ってある中国の伝統楽器を体験しました。学校で使っている楽器はわりとかんたんに音が出せるのですが、それはとても難しく、音も出しにくかったです。でも、青島の友達から言葉は通じなくても、いろいろなこつをジェスチャーで教えてもらい、楽器を通じてふれあうことができました。お互いの気持ちがあがりあえたのかな、と思いました。ぼくの地域の竹楽器とは楽器の種類や音色が違い、こんな竹楽器もあるんだなと知ることもできました。竹はその地域で様々な形で活用されていることも勉強になりました。学校に戻って、「こんな使い方もあるよ」と友達に教えてあげようと思います。



2つ目は食です。ぼくがその食べ物の中で特に強く印象に残っているのはギョーザです。日本では白いギョーザが一般的ですが、中国では緑や黒のギョーザもありました。初めて見たときは「おいしくなさそうだなあ」と思いましたが、食べてみてびっくりしました。とてもおいしかったです。そういった食の文化の違いにおどろきながら、毎回、食事が楽しく、いつもご飯が楽しみでした。

ぼくはこの研修を通して、想像以上に多くのことを学ぶことができました。見たことのない竹の加工の仕方は、きっと学校や地域の皆さんにも教えてあげて、もっともっと「竹の町、王喜」を元気にできるんじゃないか、と考えたりしました。また、見たことのないギョーザの色。世界中にはぼくの知らない食べ物が、まだまだたくさんあるんだろうな、そんな発見もありました。

初めて知ったこと、文化の違い、いろいろ知ることができてとても楽しかったです。言葉は通じなかったかもしれないけど、ぼくは友達になれたと思っています。そんな友達を世界中に増やしていきたいと思いました。ぼくには弟がいます。弟にも、ぜひ、同じ体験をして欲しいと思いました。



平成 30 年度 小学生中国派遣研修レポート

所属校【下関市立 名池小学校】
氏名【西村 心華】

①. 現地で見たことや体験したこと

私が青島市に行き、最初に感じたことは、予想以上に都会だったという事です。高層ビルが立並び近くに山がない為、広々としており日本でいうと北海道のような印象を受けました。又、青島市シンボルの海へ突き出ている栈橋は、あまりの長さに驚きました。そこから広がる海は、とてもきれいでした。

回潤閣という八角形の建築も日本にはない独特なものでした。その他、驚いた事は、太平路小学校での体験授業が黒板ではなく大きなタッチパネルを使っていた事です。日本の小学校と比べ、とても技術が進んでいると思いました。

本場と私の知っている中華料理の違いについても興味がありました。かなり印象が違いました。料理内容では、焼きぎょうざがなくゆでた水ぎょうざが中心と知り、驚きました。味も香辛料や調味料をたくさん使っているのか、日本で食べ慣れたものとは全く違う料理に感じました。

②. 中国の友達との交流記

◎青島市婦人活動センター

私たちは「桃太郎」の劇を発表しました。途中のクイズで盛り上がり、くれたので、私たちも楽しい気持ちになりました。最初は中国語が通じるのかどうか不安でした。けれども、きちんと聞いてくれている様子がわかり、とても安心しました。又、中国の方達の発表では、アクロバティックのようなものがあり驚きました。

嬉しかった事の1つは、プレゼントをたくさん準備してくれていた事です。手作り品もたくさんあり、私達の事を思って作ってくれたんだと思うと、より一層うれしい気持ちになりました。

印象に残った出来事は、中国の楽器の弾き方を教えてもらった事です。初めは扱う私にとっても優しく教えてくれました。言葉はよく分からなくても、ジェスチャーや楽器などを通じて、コミュニケーションができることを学びました。

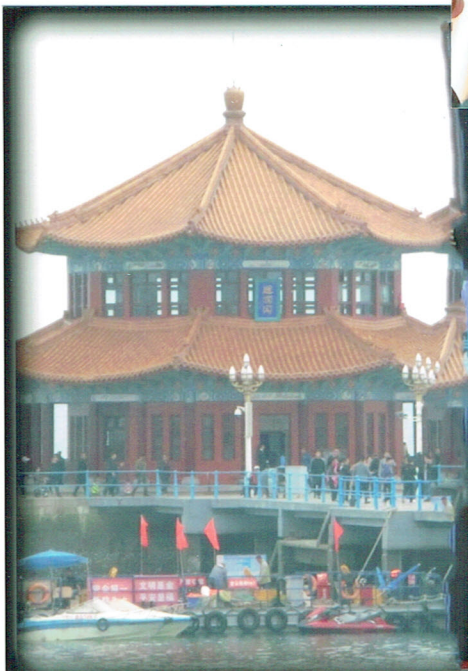
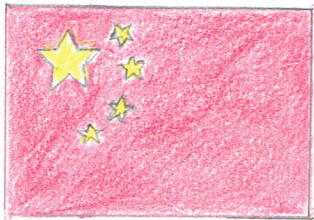
3. まとめ

私は、出発前、期待と不安が入り混じっていました。正確に言うと不安が多かったです。特に、「私の中国語が通じるのか?」、「みんなと仲良くできるのか?」などです。又、日本にいるときには「中国と日本は仲が悪い」、「第二次世界大戦もあり中国人は日本人を嫌っている」などの中国の人に対する不安がありました。しかし、婦人活動センターや太平路小学校での交流で、私の下手な中国語も理解してもらえ、劇などを通じ、身振り手振りなどをする事で、言葉が通じなくても楽しく過ごすことができました。

中国の人たちは思った以上にやさしい人が多かったです。日本にいるときと同じ感覚で、友達ができたと感じることができました。

今回の研修をきっかけに、今後は、中国の人だけでなく様々な国の人々と交流を持ちたいと思いました。そのためには、外国語を学ぶことや文化や歴史の理解なども必要だと感じました。

このような貴重な機会を与えていただき、うれしく思いました。





平成 30 年度 小学生中国派遣研修レポート

所属校【川中西小学校】

氏名【野村 心海】

下関と青島はちがう

下関

- コンビニやスーパーが多い
- 人はそこまで多くない
- 高い建物も多くない

中国

- 銀行がとても多い
- 町は高い建物でいっぱい
- 低い建物の方が少ない

しかしイオンは日本と似ていた

国によって
それぞれ
ちがう

五四広場



中国の人はとても親切でやさしい!

私は中国人はこわいというイメージがあった。でも実際、行ってみるとそんなことなかった。

中国人はとても親切でやさしい人だった。

私が「ニーハオ」と声をかけると、笑顔で「ニーハオ」と言いかえりとてもうれしかった。



一番楽しんでいたのはこれ!

太平路小学校



たくさんの人に歓迎してもらってとてもうれしい気持ちになった。

歓迎してもらったとき、ふでばこでかざりものをもらった。今は自分のTシャツである。

婦人児童活動センター

私たちが最もがんばった「ももたろう」の劇を楽しんでもらえてよかった。がんばってよかったなと感じた。

最後にプレゼント交換をした。たくさんの人に中国ならではのものをもらってとてもうれしかった。もらったときには「エイエイ」といいコミュニケーションがとれた感じがした。もらったプレゼントは宝物として大切にとっておきたい。



これだけはわすれられない思い出

① イオンで友達とおそろいのマニポーチを買ったこと

初めて会った人だからけれど仲良くできて良かったです。ここまで仲良くなれるとは思っていませんでした。買ったマニポーチは大切に使っています。



② 日本の中華料理と味がちがったこと

初めて食べたものが全然ちがったです。一番印象に残っている食べ物、くるすみきょうざです。一番長に入った食べ物はあげパンです。私の口にあわなくてあまり食べていなかった。なので日本に帰ったとき、やせていました。でもこれも一つの思い出として残しておきたいです。



中国で学んだこと

言葉はちがっても、木目手に伝えようとする気持ちがあればコミュニケーションは取れる。しかしうまくいかないこともある。もちろん言葉の力でというのものもある。しかし伝えようとする気持ちがあれば絶対に心は通じ合う。

① 何にでもチャレンジすることが大切

私が中国に行けたのは、行きたいという気持ちがあったこと、作文や面接にチャレンジしたから。

もしチャレンジしなかったら、こんなにいい思い出はつくれなかった。中国に行くこともできなかった。また、マイナス思考で考えるのではなく、プラス思考で考えることが大切。

中国にわざわざ行ったメンバー、いっしょうわすれられない

中国に行きたいという気持ちがある人が集まったメンバー

縁があって出会ったメンバーだからいっしょうわすれられない。

このメンバーだったからこそ心が一つになって何にでも挑戦したと思う。だからこのメンバーとの出会いを大切に心に残しておきたい。

町の風景も
わすれられない

